

第6回青森県社会教育委員の会議 会議概要

| | |
|------|---|
| 日時 | 令和2年7月29日(水) 10:00~12:00 |
| 場所 | 青森県庁南棟5階教育委員会室 |
| 出席者 | <p>《 委員 》 敬称略 8名 松本 大 吉川 康久 清水目 明美 永澤 正己 伏見 憲子 岩本 美和 工藤 貴子 廣森 直子</p> <p>《 事務局 》 4名 葛西 浩一(生涯学習課長) 花田 千穂(学校地域連携推進監) 大島 義弘(生涯学習課 企画振興グループ 主任社会教育主事) 他1名</p> <p>《 その他 》 3名 清川 喜之(学校教育課 課長代理) 佐藤 元伸(総合社会教育センター 教育活動支援課長) 三浦 博明(生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事)</p> |
| 内容 | <p>1 開 会</p> <p>2 案 件 (1) 答申案(素案)について(重点審議事項2) (2) 今後のスケジュールについて (3) その他</p> <p>3 閉 会</p> |
| 配付資料 | <p>次第・委員名簿・座席図</p> <p>資料1 答申の骨子【重点審議事項2】</p> <p>資料2 答申案(素案)【重点審議事項2】</p> <p>資料3 青森県生涯学習審議会・青森県社会教育委員の会議スケジュール</p> <p>〈参考資料〉</p> <p>1 第2回会議における意見の整理</p> <p>2 第3回会議における意見の整理</p> <p>3 第5回会議における意見の整理</p> <p>4 重点審議事項2の理由書</p> |

1 開 会

(内容省略)

2 案 件

議長 本日で最後の会議となる。本日の御意見をもとに、最終答申案をまとめていくことになる。いつも通りの活発な議論をいただければと思う。それではまずはじめに、案件（１）重点審議事項２に関する答申の素案について、事務局から説明していただきたい。

事務局より、資料について説明。（資料１・２）

議長 それでは、柱立てごとに区切って御意見をいただくこととする。まずは柱立て「１ 県内社会教育施設の現状と課題」について御意見をいただきたい。

委員 社会教育施設の一例として女性教育施設の記載がある。県内の女性教育施設について説明していただきたい。また、女性を主な対象とした施設を記載した意図について説明していただきたい。

事務局 県内には、青森県男女共同参画センターや青森市男女共同参画プラザなどの女性教育施設が設置されている。女性教育施設の記載については、社会教育施設の一例として記載した。特段の意図はないので、青少年教育施設と入れ替えて記載することとする。

議長 次に柱立て「２ 特色ある県内社会教育施設等の取組」について御意見をいただきたい。

委員 青森中央市民センターの障害者を対象とした「青年教室」は、地域住民のサポートが重要な役割を果たしている活動なので、柱立て「２ 地域住民の事業への協力」に記載することに異論はない。一方で、柱立て「３ 社会的困難を抱える人への支援」に「青年教室」の記載があるので、柱立て「２② 首長部局との連携・協働」の「社会的困難を抱える人への支援」への記載も検討していいと考えるがいかがか。

事務局 青森中央市民センターの「青年教室」は、首長部局との連携がほとんど見られないので、現行のままとしたと考えている。

委員 柱立て「２ 社会的困難を抱える人への支援」への記載が、五所川原市中央公民館の取組のみになっているので、同様の取組を他の施設が実施していることが読み手に伝わらないのではないか。

議長 柱立て３で、「社会的困難を抱える人への支援」について、すべてを集約して記載しているので、現行のままでもよいと考える。

委員 各施設における取組は多様な側面を持っている。その中で特に際立っている部分に

着目して項目ごとに分類して記載している。特徴的なところが地域住民との連携ととらえれば、現行のままでいいと思う。

委員 現行のままで異論はない。「社会的困難を抱えている人への支援」への記載が五所川原市中央公民館の事例のみになるので、可能であれば青森中央市民センターの事例も加えたいと考えて発言した。

議長 項目名に「福祉部局との連携による」を追加してはどうか。項目名の変更を含めて事務局で検討していただければと思う。

委員 「近隣の施設等との連携」という項目に「駐車場の確保」だけでは、多少物足りない感じがする。追加できる内容を検討してほしい。また、三沢航空科学館の記載について、「多様な学びの機会の提供」の職業体験と「学校と地域をつなぐ取組の推進」のキャリア教育が内容的に重なっている印象を受ける。

事務局 「近隣の施設等との連携」に「駐車場の確保」以外の内容についても記載できるとよい。また、三沢航空科学館の取組については、「施設が有するネットワークを生かす」という点は共通するが、「施設での職業体験を含む多様な学びの提供」と「学校と地域の企業・団体をつないでのキャリア教育の提供」という2つの観点から分けて記載している。

委員 「毎週末に」とあるが、毎週末に職業体験は実施されていない。「職業体験」を削除すればよいのではないか。

委員 現在、新型コロナウイルスの影響のため、イベントの実施機会も限られているので、「毎週末に」も削除してはどうか。

議長 それでは「毎週末に職業体験や」を削除することとする。

議長 「近隣の施設等との連携」についてはどうか。確かに「駐車場の確保」だけでは、多少物足りない感じがする。

委員 つがる市立図書館の取組で、近隣の図書館と連携して相互に返却できるサービスについて追加してはどうか。

委員 項目名については、課題の③に「施設の利便性」とあるので、「近隣の施設等との連携による利便性の確保」としてはどうか。

議長 それでは、そのように修正をお願いします。

(休憩)

議長 それでは再開する。柱立て「3 これからの時代に求められる社会教育施設の役割」について御意見をいただきたい。

委員 今回の実地調査では、職員の力量が事業の運営に大きな影響を与えていると強く感じた。地域とのコミュニケーションにおける各職員の普段からの地道な積み重ねが、各施設の事業実施における多様な主体との連携につながっている。そのような職員の研鑽の重要性について、さらに書き加えていただきたい。

委員 生涯学習・社会教育関係職員の現状としては、経験者が不足していると感じる。事業の実施に関するノウハウや技術の継承を含めた人材育成においては、ある程度の期間の実務経験が必要である。そのため、社会教育主事等の専門的職員の配置を含め、人事面での配慮が必要だと考える。

議長 大変重要な指摘をいただいた。職員の日々の研鑽と熱意と専門性のある職員の育成・確保について書き加える形で修正をお願いする。

委員 「地域住民の学び直しの機会の提供」に関して、一行目に「男女を問わず」とあるが、次の段落では「子育て世代の女性」とある。女性に限定せず、男女であるべきと思うがいかがか。

事務局 それで異論はない。女性と記載したのは、結婚や出産を機に一度仕事を離れるケースが男性よりも女性が多いからである。女性に限定する内容ではないので、女性を削除する形で修正する。

議長 ほかに意見があればお願いしたい。

委員 キャリア教育に関しては、多くの学校で実施されているが、各学校間の横のつながりがほとんどない状態である。「公民館が中心となって学校間の情報共有を進めることで各学校におけるより効果的な教育活動が期待できる」と記載されているが、大変重要な指摘である。

議長 「県内社会教育施設に係る課題」の中で、そのことについても書き加える方向での検討をお願いできればと思う。

委員 これまでの話の中で、各施設の事業の実施における職員の専門性の重要性が指摘されている。そのことと関連することだと思うが、(3)「③地域における多様な主体との連携」の中の「担当職員の資質向上」の記載について、職員自身の人脈やネットワークの内容を書き加えてはどうか。

議長 職員自身の人脈やネットワークの内容を(3)または(1)へ記載するように修正をお願いできればと思う。

委員 施設の運営においては、職員とともにボランティアとして地域住民も大きな役割を果たしている。職員に加えて、地域住民の熱意についても盛り込めるといいのではないか。

議長 答申としては、教育委員会や施設の職員を主な対象としているが、「職員のネットワークと同時に住民一人一人のつながりも大事」と記載すると両者に関わる内容にな

と思う。

委員 繰り返しになるかもしれないが、各施設が特色ある事業を展開する上で、職員の果たす役割が重要である。職員に対する提言をしっかりと記載した上で、サポートする地域住民の力も欠かせないことを記載できればいいと考える。

議長 対象を明確にして記載できるといいと思う。

議長 それでは、案件（２）今後のスケジュールについて事務局から説明をしていただきたい。

事務局より、今後のスケジュールについて説明。（資料３）

議長 続いて、案件（３）その他ということで、これまでの活動を振り返って、各委員から簡単に感想を述べていただきたい。

各委員より、活動を振り返っての感想。

3 閉会

（内容省略）